

chaos theory

— まちの余白に小さくて大きな構築を —

衰退を迎えるまちにおいて空間は余りはじめており、管理の希薄化した土地や道では、住民によるまちの無秩序な占有化が為されている。それらは住民同士の緩やかなルールのもとに成立し、互いの関係を築いている。それらを引き出す新たな余白空間の在り方を提案する。



1970 造成によるまち並み形成

2020 まちの余白の増加

202X 調整装置の構築

20XX 景観全体の統一化

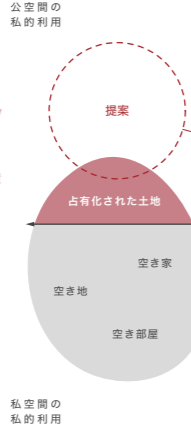


これからの公私空間利用

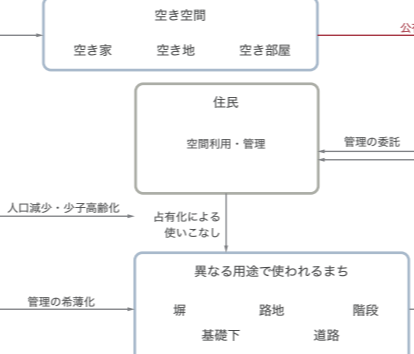
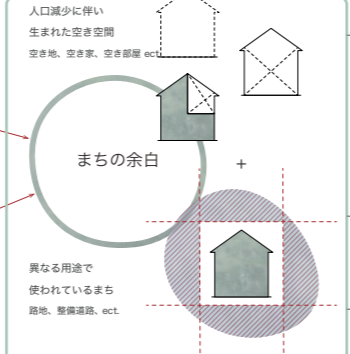
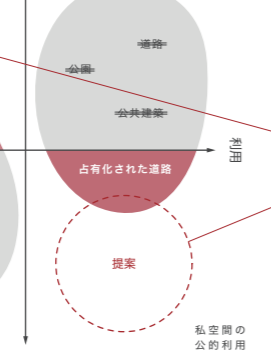
- chaos**
無秩序から生まれた行為
- ① まちは管理のために公私領域は明確化され場の偶発性を制限してしまつた。
 - ② 制約は場の自由性を奪い、利用目的が時代に合わなくなれば放置される。
 - ③ 管理の希薄化したまちに、周辺住民の占有による場の使いこなしの発生。
 - ④ それらは空間利用の基準線にゆらぎを与え地域コミュニティを繋ぐ機能を果たす。

theory

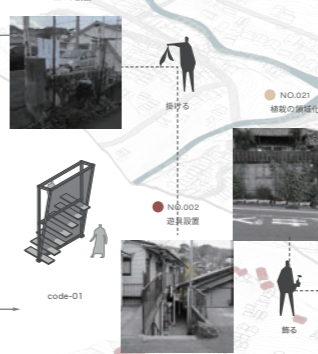
- theory**
建築的調整装置
- ① 占有化された土地
 - ② 占有化された道路
 - ③ 占有化された土地
 - ④ 占有化された道路



連携と公有地化



抽象化とデザインコード



公的空間の私的利用



減っていくまちと増える余白

